



今後のAI型教材(ミライシード)に関する活用と運用について

令和8年7月17日（金） 習志野市教育委員会学校教育部学習指導課

アンケートの概要と位置づけ

アンケート回答数 ※アンケート結果については単純集計を行いました。() 内は回答率



【児童・生徒】

小学生 **3,770**人
総数8,583人 (43.9%)

中学生 **2,343**人
総数4,138人 (56.6%)



【保護者】

小学校 **2,172**人

中学校 **676**人



【教員】

小学校 **277**人
総数548人 (50.5%)

中学校 **127**人
総数284人 (44.7%)

アンケートから傾向を把握することで、活用上のメリットと課題を整理し、運用改善に生かします

アンケートから見えるミライシードのメリット



子どもたちの声

結果がすぐわかり、見直しがスムーズ

小学生：

42.8%

中学生：

42.4%

繰り返し問題に取り組める

小学生：

55.9%

中学生：

69.1%



先生たちの声

採点や進み具合の確認が効率的

小学校教員：65.3%

採点時間の短縮

小学校教員：74.4%

反復学習や即時フィードバック、採点業務の効率化に一定の有効性があります。

アンケートから見える主な懸念

 1. 「書く機会」が減ることへの不安

先生 小 **77.3%** / 中 **60.6%**

保護者 小 **71.2%** / 中 **54.9%**

 2. 「漢字力」が落ちることへの不安

児童生徒 小 **48.1%** / 中 **71.2%**

 3. 「思考力・理解力」への不安

先生(小): **53.1%**

保護者(小): **36.6%**

 4. 視力低下への不安



自由記述による指摘多数

活用の在り方を工夫し、ノートとの併用や教科ごとの補完が必要となります。

【小中共通事項 1】 ノートを併用し、「手で書く機会」をしっかりと守る



- AI教材の「丸つけの早さ」を活かしつつ、考える過程や文字は「紙のノート」に書くスタイルを基本とします。
- デジタルとアナログの両方（ハイブリッド）で学習を進めます。

使う時間は「最初か最後の10分」を基本に



最初の10分
(導入・復習)



オフラインでの深い思考・話し合い



最後の10分
(終末・確認)

時間のコントロール：

ミライシード（ドリルパーク）の使用は、授業の導入や終末の約10分間を基本とします。

「考える力」は対面で：

深く考える活動や話し合いは、これまで通り授業の中（オフライン）でしっかりと行います。

端末での学習が難しい子どもたちへの配慮

タブレット学習に困難を感じる児童・生徒を取り残しません。



合理的配慮として教育的ニーズや実態に応じて、
代替手段を含めた支援を柔軟に行います。

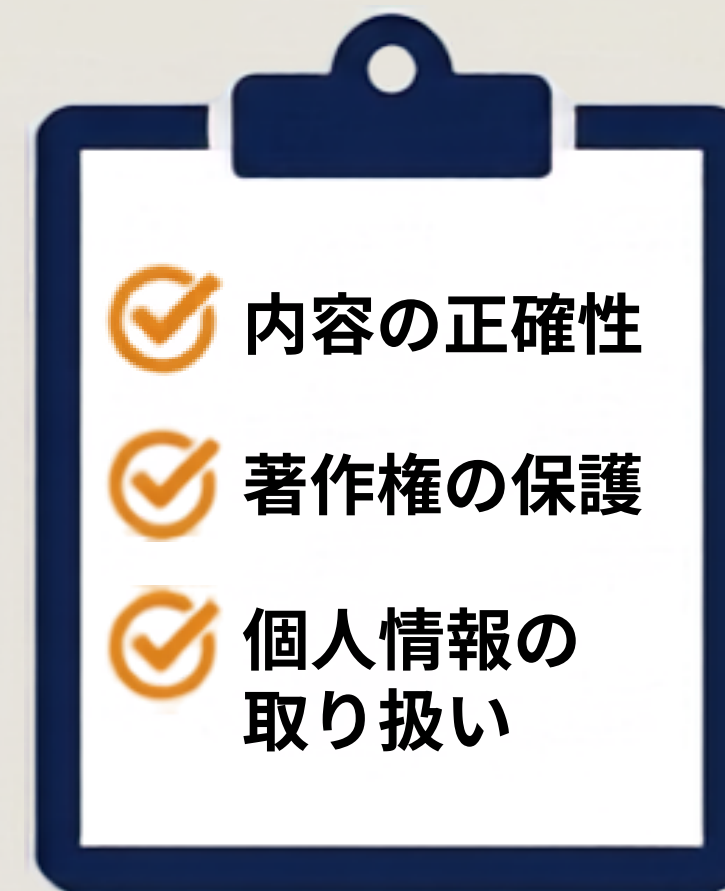
先生の手作り教材は「市全体でシェア」する

クラウド共有



先生が作ったプリント等の教材は、市内共通のクラウドに保存し、先生間で使い合えるようにします。

生成AIの安全な活用



問題作成等で生成AIを使う場合は、国のガイドラインを守り、必ず先生の目でチェックした上で活用します。

漢字学習：厳しすぎるAI判定を見直し、ノート中心へ

Problem



「判定が厳しすぎる」ため意欲が下がる

児童: 48.1% / 教員: 57.4%

Solution



ミライシードの役割:

「書き順の確認」や「間違えた漢字に気づく」補助ツールとして活用。

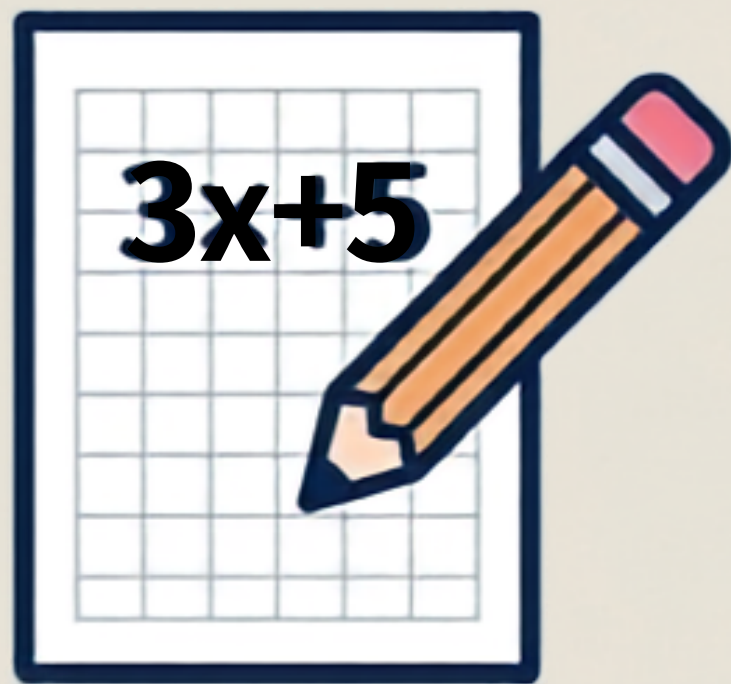
練習のメイン:

実際に手を動かす「漢字ノート」での練習を中心とします。

※ 1、2年生は、発達段階に合わせて従来の「紙のドリル」も活用します。

計算学習：「なぜ間違えたか」をすぐに見つける

Step 1



途中式は紙に：頭の中だけで解かず、「計算ノート等」に途中式をしっかりと書きます。

Step 2



答えのみ入力：計算結果を端末に入力するハイブリッド方式で学習を進めます。

※ 1、2年生は、漢字と同様に「紙のドリル」も併用します。

デジタルと紙（ワークテスト）の使い分け

基本はデジタルであるミライシードの「テストパーク」を使いますが、ミライシードで対応できない部分はワークテストを使います。

	 デジタル (テストパーク)	 紙のテスト (ワークテスト)
1～3年生		すべてのテスト
4年生	社会以外	社会
5・6年生	外国語以外	外国語（英語）

市作成問題活用の課題と、これからの「評価」



市作成問題活用の課題

市作成問題の活用については著作権の問題や問題作成の負担（検定教科書の改訂や学習指導要領への対応など）が大きいいため、ワークテストを活用します。



成績のつけ方（評価）

- 「テストパークの点数」だけで成績を決めることはありません。
- 必要に応じて指導書資料等を活用し、紙でのテストも実施します。
 - あらゆる場面での活動を総合的に評価します。

【小学校：活用事例】

書く力を育てる朝学習「アウトプットチャレンジ」



背景: デジタル化で「文字を書く機会」が減ってしまうことを防ぐため、学校全体で朝の学習時間を活用しています。

内容: テーマを決めてミニ作文（アウトプットする）に取り組む活動

学校全体で「デジタルでのインプット」と「紙へのアウトプット」のバランスを整えるモデルケースとなります。

作業部会の報告【中学校：国語】



漢字の定着

小学校と同様、ノートを併用して手書きで練習します。
ノート活用の有効性を先生同士で共有します。



文法・漢字テスト

先生が作成したテスト（必要に応じて生成AIを活用）を
Teamsなどで学校間でデータ共有します。



資料集（便覧）

便覧に相当する内容については、教科書や信頼できる既存の
資料・デジタル教材を組み合わせることで学びを深めます。

作業部会の報告【中学校：数学】



計算と思考

数学は「紙に書いて思考を整理する」ことが重要。
問題はタブレットに映し、計算や途中式は「ノート」に
手書きします。



紙での学習教材

千葉県HPの「やる気学習ガイド」、MexCBT、教科書
付属のプリント等を積極的に利用します。



作図・応用問題

必要に応じて作図用プリント作成システムの導入を検
討します。応用問題は生成AIを活用しつつ、ミライシ
ード本体への機能向上も要望します。



- 単位変換・化学反応式

ドリルで足りない部分は、授業中に詳しく取り扱います。

- グラフ・作図

授業の中では、これまで通り「紙のプリント」を使います。
分かりやすい図のデータは、市内の理科の先生方で共有します。

- 図やグラフなどのテスト素材

必要に応じて先生がテスト作りに使える「データ版の問題集」の導入を検討します。

基本方針

現時点では、基本用語の暗記など「ミライシードを中心に学習を進められる」と整理しています。

補強ポイント

- 資料集の扱い：より深い学習のため、必要に応じて保護者負担で購入することを検討します。
- 資料等のテスト素材：理科と同様に、必要に応じてテスト作りに使える「データ版の問題集」の導入を検討します。





リスニング・長文

生成AIを使って問題を作成し、リスニングはALT（外国語指導助手）のリアルな声で録音して実践的に活用します。



発音（フォニックス）

1年生の教科書のLet's Start!の内容を活用し、基礎を固めます。



英作文（自己表現）

授業の中で「場面や条件」を設定し、ノートに自ら手書きさせることで、英語で表現する力を伸ばします。

テスト前の「まとめ出し」から「こつこつ学習」へ

現状：一気に詰め込み



テスト前に範囲を指定して一気に課題を出すケースが多数。量が腸大になり負担大。

生徒の**61.4%**が回答

改善：こつこつ反復練習



「授業の单元ごとに定期的・少しずつ出す」形へシフトし無理なく運用。

生徒の**32.6%**が回答

【中学校：新しい学習アイデア】

デジタルを使いこなす、一歩進んだ学習方法



1. プレテスト & 自分だけノート

授業でテストパークを「プレテスト」として使い、自分でまとめた「自作ノート」を見ながら学習を進めます。



2. 自作のデジタル「赤シート」

タップすると答えが出る暗記教材（重要語句）をSKY MENUで自作し、システムを通じて生徒に配信します。



3. 自分だけの「苦手克服ベスト」

間違えた問題の画面を保存（スクショ）し、ノートアプリに貼り付けて、自分専用の弱点克服ノートを作ります。

これからの展望

【まとめ】

今回示した「**ノートの併用**」や「**時間の工夫**」をすでに実践している学校からは、「**学習への取り組み状況や理解の定着に一定の成果が見られた**」との報告がある。

教育委員会として、この**活用・運用方法を市内全校に周知**し、先生向けの研修を行いながら、子どもたちの学びを全力でサポートしていきます。